

食品企業における CSR と環境会計

県立広島大学 四方 康行
広島県立大学大学院 今井 辰也
県立広島大学大学院 鄒 金 蘭

1. はじめに

近年における企業においては、CSR（企業の社会的責任：Corporate Social Responsibility）が注目されるようになり、日本においても具体的な取組が行われるようになってきた。その企業の活動報告は、「社会・環境報告書」や「CSR レポート」として公表しているところがある。これは、これまで、財務面のみを取り上げてきた「財務報告書」や環境面のみを取り上げてきた「環境報告書」から、上記のような「経済・社会・環境」のトリプルボトムライン（3つの利益）が重要視されるようになった結果である。

食品企業においては、連日のごとく、企業の不祥事による社会的責任が問われているのは周知のとおりである。『農業と経済』誌において2008年7月号「食料調達の裏側—CSR（企業の社会的責任）ブームを問う」や2008年9月号「食品汚染事故—問われる危機管理」が、この数ヶ月において連続的に特集が組まれたのもそのような背景がある。本報告では、食品企業におけるCSRの動向を探るとともに、その一部である「環境会計」の現状と今後の展望を論じる（CSR会計までは進んでいないので）。

2. 研究方法

食品企業という分類は、明確なものではない。本研究では、上場企業を対象にして、「食品企業のCSRと環境会計」を網羅的に考察する一方で、事例研究として数社取り上げて、詳細に論じる方法をとった。会計は実践と理論との相互交渉において発展していくものであり、実践例を取り上げる意義は大きい。上場企業の食品企業とは、「有価証券報告書総覧 会社名一覧」にある第1部上場会社、第2部上場会社、地方単独上場会社、店頭登録会社の「1. 水産」、「4. 食料品」の全企業及び「19. 商業」のなかの外食産業である。これらの食品企業の動向を比較検討する。検討項目では、CSR及び環境会計であるが、後者では「食品製造業のための環境会計マニュアル」「食品流通業のための環境会計マニュアル」（食品需給研究センター・政策科学研究所）なども参考にした。

3. おわりに

味の素グループでは2000年に環境報告書を発行し、2005年からは「CSR レポート」を発刊するようになった。多くの企業では、「環境報告書」→「CSR 報告書」であるが、味の素では、両者とも報告書として（あるいはインターネットから）入手可能なところがよい。寶酒造では環境に関して「緑字決算」というユニークな統合価値指標を公表している。そのほか、環境経営、環境会計をリードしてきたビール会社や、外食産業についても事例的に検討した。企業間比較が可能な指標まで作成することが重要である。